

## 各応募団体の申請概要

1. **団体名称** 会津若松市  
**代表者** 会津若松市長 室井 照平

### 2. 地域の課題・ニーズを踏まえた歩行者移動支援サービスのイメージ

#### ● 地域の課題・ニーズ

- ・歴史的景観保全のため歩行経路や施設内には様々なバリアが存在しており、市民及び観光客の移動の円滑化のため、バリア情報やバリア回避のための情報を手軽に得るための方策が必要である。
- ・市の高齢化が進行しており、歩行者移動支援のニーズは増大傾向にある。また冬季には積雪寒冷地特有の雪氷によるバリアが発生し歩行者を悩ませており、バリアの発生可能性や撤去状況等も含めた総合的な情報提供を行うことが重要である。

#### ● 歩行者移動支援サービスのイメージ

- ・個人の属性情報や現在地情報を活用した最適ルートを案内するサービス。
- ・歩行空間ネットワークデータを用いた地域のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン適用状況を評価するサービス。

#### ● 既に取り組んでいる施策との連携の可能性

- ・「交通バリアフリー基本構想」「冬期バリアフリー基本構想」に基づいた道路や歩行環境の整備、市内各施設のバリアフリー情報を集約した「福祉まっぷ」の整備等の各種施策を結び付け、実際のニーズに即した情報やサービスを提供したいと考えている。

### 3. 実施体制

会津若松市(総務部情報政策課、企画・福祉・道路関連部署等)、OpenStreetMap Fukushima、CODE for AIZU、その他学術機関・民間団体等

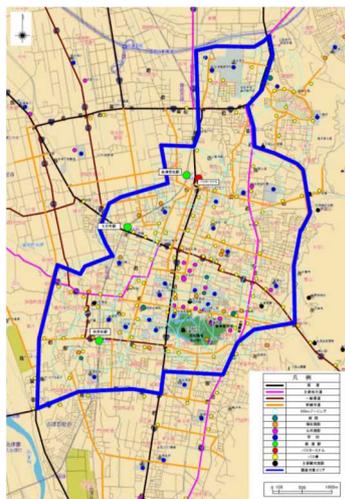
### 4. 実施内容

#### ● データのリストアップ・収集

- ・施設・イベント関連データは、主に市のオープンデータ利活用基盤 DATA for CITIZEN 上のデータを利用する。歩行空間及び道路に関するデータは、整備率が高い既存の OpenStreetMap のデータをベースデータとし、市から新たに公開するデータ(融雪施設整備データ、歩道除雪状況、流雪溝位置情報、歩道整備状況、等)を補完的に利用して精度を高めていく。

#### ● データ収集及び整備を行う対象エリアとその考え方

- ・「会津若松市交通バリアフリー基本構想」における第 1 次・第 2 次重点整備地区が適用される地域を中心に、公共施設の立地状況、主要施設を基準とした徒歩圏及び徒歩での移動が多くみられる区域を抽出し設定する。



第 1 次重点整備地区



第 2 次重点整備地区

### 5. 将来のデータのメンテナンス・利活用促進

- ・各種データの更新は、基本的にデータ所管部署で行い、情報政策課にてオープンデータ化する予定。
- ・データの利活用促進は、会津大学と連携し利活用事例の創出を図る。また、データを公開し、地域の様々な団体(会津大学、CODE for AIZU、等)によるアイデアソン、ハッカソン等の利活用を促していく。

## 各応募団体の申請概要

1. **団体名称** 姫路市  
**代表者** 姫路市長 石見 利勝

### 2. 地域の課題・ニーズを踏まえた歩行者移動支援サービスのイメージ

#### ● 地域の課題・ニーズ

- ・姫路駅周辺の整備が進み、多くの観光客が姫路を訪れており、障害者や高齢者の観光客も増加している。市民や来訪者へ、バリアフリーに関する情報を十分に提供するための対策が必要となっている。
- ・市内在住の方々だけでなく、姫路を訪れる多くの方々に必要な情報を提供できる環境を整えていくことが重要である。また、庁内各部署が保有する情報を横断的に収集し、広く利用しやすい形で発信していく必要がある。

#### ● 歩行者移動支援サービスのイメージ

- ・姫路駅や観光バス・自家用車が集まる駐車場等の出発地から、姫路城や中心市街地内の目的地への最適な動線を案内でき、バリアフリー対応施設などの情報も提供するサービス。
- ・福祉部局等の施策で作成している既存のバリアフリー情報冊子への活用・連携。

#### ● 既に取り組んでいる施策との連携の可能性

- ・福祉部局等が保有している精度の高いバリアフリー関係資料の情報を収集し、本事業でのデータ整備によりデジタル化することで情報発信力の向上を図る。観光部局での観光客への案内にも活用する。

### 3. 実施体制

姫路市(交通計画室、情報政策室、福祉・まちづくり・道路・観光関連の部署等)

### 4. 実施内容

#### ● データのリストアップ・収集

- ・姫路市の福祉・まちづくり・道路・観光関連の部署等が保有するデータを収集する。
- ・公共施設のデータ、主要施設のバリアフリーデータ、道路データ、ユニバーサルデザインマップ情報、姫路市バリアフリー基本構想、姫路駅周辺整備図面等の工事図面、観光情報(姫路観光ガイドブック)等の情報を収集する。
- データ収集及び整備を行う対象エリアとその考え方
  - ・姫路市バリアフリー基本構想における重点整備区域の中から「JR 姫路駅・山陽姫路駅周辺地区(A=2.65km<sup>2</sup>)」を選定する。



姫路市バリアフリー基本構想重点整備地区「JR 姫路駅・山陽姫路駅周辺地区」

### 5. 将来のデータメンテナンス・利活用促進

- ・定期的(年 1 回または 2 回程度を想定)に各種データを保有している所管課に照会し、更新していく。
- ・データの利活用促進は、オープンデータの存在を知ってもらうことが第一であり、市ホームページでの PR に加え、活用の可能性が想定される企業等へ周知していく。また、さらなる利活用を図るため、姫路城を訪れる外国人観光客向けにオープンデータが活用され易くなるよう、多言語化等の方策を検討する。